令和４年度
神村学園専修学校　学校評価委員会
議事録

令和５年３月11日（土）　13：30～15：00

学校法人神村学園　神村学園専修学校

（１） 開会のあいさつ（神村学園専修学校　校長　神村　慎二）
学校に対する助言等、引き続きよろしくお願いいたします。
年１回開催される会の意義等、話がある。
本日出席の学校評価委員会委員の紹介。

（２） 委員会の趣旨･目的等について（神村学園専修学校　副校長　西山　圭介）
別資料「学校評価の目的、定義と流れ」にそって、本会の目的、定義、流れ、その意義を説明する。

議長選任：（議長）神村学園専修学校　校長　神村　慎二

（３） 報告事項
① 自己点検・自己評価について（副校長　西山）
別資料「令和４年度　自己点検・評価報告書」に沿って説明。
神村学園専修学校の教育理念とその見える化に至る過程も併せて説明。
教育理念と目標、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、学生の受け入れ募集、財務、法令の遵守、社会貢献・地域貢献、国際交流それぞれの項目について報告。

② 理学療法学科（神村学園専修学校　理学療法学科学科長　中森　健二）
学校行事など、学生たちも積極的に協力し、頑張ってくれている。
理学療法学科の課題としては、国家試験に対する取り組み、結果の向上を考える。本校の特徴として、既卒生の合格率の高さが、全国的にみても高い点が挙げられる。今年度はさらに、台湾国籍の学生が国家試験を受験し、自己採点結果もよく、就職も無事内定を得ることができた。
資料に沿って、入学･卒業者数、国家試験受験者数等について説明する。
同様に、昨年度ならびに今年度の就職先一覧を示し、説明する。
今年度の反省として、退学者が出てしまうことへの対策、国家試験の合格率（全国的に低い合格率の中でも、本校としていかに結果を出していくか）など、引き続き取り組んでいくことが必要である。

③ 作業療法学科（神村学園専修学校　作業療法学科学科長　黒木　辰朗）
作業療法学科の特徴･特色について説明。単に機能的な回復を図るのみではなく、心がどう動くか、動かせるかということを大事にしながら学生指導に努めてきた。
資料に沿って、入学・卒業者数、国家試験受験者数等について説明。作

業療法という職業の社会的な認知度の低さを表すかのように、入学者数の少ない状況が続いていた。
同様に就職先一覧を示し、説明する。
一度国家試験が不合格であっても、神村学園は２回目で全員に近い率で合格に至っているので、１回目でどう合格させるかが今後のポイントである。

④ 看護学科（神村学園専修学校　看護学科学科長　三ツ野　佐代子）
　男子学生が多い学校という特徴がある。男子学生は優しい学生が多い。令和５年度より、60 名定員を 40 名定員に変更する。よりきめ細かい指導が行いやすくなると考えている。
　看護師国家試験については、全国平均と比較して考えた場合、まだまだ努力や工夫の余地がある。
　入学・卒業者数、国家試験受験者数等について、資料に沿って説明。
　就職先一覧を示し、説明する。

⑤ こども学科（神村学園専修学校　こども学科学科長　下木　猛史）
　入学・卒業者数について、資料に沿って説明する。
　最近の学生の傾向として、できないことをできないとヘルプを出すことができない、他の何らかの方法で解決しようという考えが強く、結果動けない印象がある。神村学園高等部からの進学が多いが、外部からの入学者も年々増加している。国の制度を利用した社会人の入学者も増えてきている。
　高等部保育科生への働きかけを行っているが、これの充実がさらに必要であると考えている。
　こども学科の場合、多くの学生が保育現場へ就職している。

⑥ 日本語学科（神村学園専修学校　日本語学科学科長　大山　千佳子）
　日本語学科の開設意図、意義について説明。
　日本語の勉強のみではなく、日本文化の体験学習も企画・実施している。
　日本語学科から本校理学・作業・看護学科へ進学した学生たちの紹介。
　コロナ禍で入国できない状況が続いていたが、少しずつ入国も可能となってきている。

⑦ 質疑応答

（向井委員）

・作業療法学科の入学者数の減少は、神村学園の問題ではなく、県や全国の協会の取り組みなども関係あるのではないか。

・看護師の求人・人事は現場でも苦労している

・日本語学科は 8 か国とのことだが、先生方は多くの言語を話せるのか？

→　基本的には、日本語での対応をとっている

・教育理念は定められているか？という点については、見える化され、確実に定められているが、職員の皆さんの評価が低いのではないか？

（山下委員）

・理学・作業療法学科の国家試験の延べ合格率はかなりすごいと思う。

・作業療法学科の入学者の減少は、臨床の現場の我々にもその責任があると、真摯に受け止めるべきと感じた

・日本語学科から作業療法学科に進学した学生さんの実習に関わったが、その強いやる気に感銘を受けた

（島谷委員）

・こども学科の資格取得者数は、卒業者数と同数でよろしいか？

→　そうです。

・男性の保育士養成は、かなり力を入れておられると思う

・昨今、保育業界でよろしくない事案が発生しているが、現場も信頼回復できるよう取り組んでいる。学生の指導もいたしますので、どんどん来ていただければと思います。

（宮内委員）

・自己点検内容の学校運営の部分で、ICT へのリテラシーが非常に低いとあるが、具体的にはどのような感じか？

→　IPad を導入しているが、著作権などの問題もあり、慎重にならざるをえない部分と気にしないでもよい部分の境界が不明瞭である。

（４） 来年度の学科の目標や取り組みについて

① 理学療法学科（中森）

・メンタルの弱い学生への対応、切羽詰まってからではなく、早い段階で相談する・できる環境づくりが重要

・国家試験対策について、1 年次に行った内容をいかにして持続して保持でき

るようにしていくか、そのシステムの構築が必要であると考えている。

② 作業療法学科（黒木）

少ない入学者であっても、その数を減らさず卒業までもっていけるか？その数で国家試験を受験し、合格できるか？を、目標の設定をしっかりとイメージし、取り組んでいくことを課題とする。

③ 看護学科（三ツ野）

入学者と卒業者、国家試験受験者の数を合わせる努力が重要である。

国家試験合格率については、成績不振者への対応をどう考えるか、職員側の取り組みも重要である。

学習する者の姿勢として、服装や化粧、髪型などいつでも医療機関に赴くことができる状態を指導していきたい。

④ こども学科（下木）

男子学生が例年 2～3 名であるが、来年度は 8 名の入学者がある。島谷委員からのご助言で男子学生もターゲットとすべきといただいたので、男子学生の多さは新しい雰囲気で楽しみでもある。

今後のこども学科の体制・あり方については、変動する時期でもあり、鋭意準備を進めていく。

⑤ 日本語学科（大山）

看護学科の新カリキュラム導入で、看護学科でも国語の講義が始まり、リハ・看護の国語授業を通して、留学生との交流の場を増やしていきたい。

いちき串木野市との連携も今後とも機会があれば行っていきたい。

（５） 閉会のあいさつ（神村学園専修学校　副校長　松ケ野　透）

作業療法学科の数についての分析や説明、本日のご助言へのお礼などを含め、話をする。